

短 報

看護技術習得における能動的自己学修を促進する 科目展開についての試み

—実習室助手との協働による取り組み—

佐居 由美¹⁾ 中溝 倫子²⁾ 樋勝 彩子¹⁾ 大橋久美子¹⁾ 加藤木真史¹⁾

The Trial of the Teaching Method which Promotes the Active Self-learning in Nursing Skills Mastery

—Collaboration with Nursing Skills Lab Instructor—

Yumi SAKYO¹⁾ Rinko NAKAMIZO²⁾ Ayako HIKATSU¹⁾
Kumiko OHASHI¹⁾ Masashi KATOOGI¹⁾

[Abstract]

Practice combined with the student's individual characteristics is needed for acquisition of nursing skills. Therefore, we, St. Luke's International University, aim to improve the environment of Nursing Skills Lab to help students' practice according to their own pace. The committee of the nursing learning lab was investigated in the 2015 fiscal year. The results revealed that "having poor manners" went up as a factor that obstructed student's self-learning. Moreover, "explanations of the directions for self-practice in a class" was mentioned as a factor that needed to be promoted.

To facilitate improvement of these factors, we collaborated with the Nursing Skills Lab Instructor and provided time for "practicing environmental management/self-practice in the class of Nursing Skill I, and this helped promote student's active learning.

[Key words] active learning, Nursing Skills Lab Instructor, Nursing Skills Lab, nursing student, nursing skills

[要 旨]

看護技術の習得には、学生個人の特性にあわせた学修が必要となる。そのため、聖路加国際大学では、学生が自身のペースに合わせて自己学修できる実習室環境の改善に取り組んでいる。2015年度実習室小委員会による調査にて、学生の自己学修を阻害する要因として「使用マナーが悪い」、促進する要因として「授業での自己学修物品の使用方法的説明」などが挙げられた。これらの要因の改善に向け、実習室助手と協働し、基礎看護技術論Ⅰの授業の中に「学修環境整備／自己学修」の時間を設け、学生がより能動的学修するための取り組みを行った。

[キーワードズ] 能動的学修, 実習室助手, 実習室, 看護学生, 看護技術

1) 聖路加国際大学看護学部看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2) 聖路加国際大学看護学部実習室小委員会・St. Luke's International University, The Committee of the Nursing Learning Lab

I. はじめに

基礎看護技術の習得には、個人の特性にあわせた自己学修が必要となる。そこで、聖路加国際大学では、実習室小委員会が、学生の自己学修の場である実習室環境の改善に取り組んでいる。2015年度実習室小委員会は、教育改革推進事業の助成を受け、「看護学部学生の能動的学修を推進する実習室環境の整備」事業を行った。その結果、学生の自己学修を促進する要因として「利用する学生のマナーの向上」、「授業での学修方法の提示」、「演習や授業での課題の提示」などが挙げられた。

これらの要因の改善に向け、科目担当者が実習室助手と協働し、看護技術習得を主たる学修目的としている科目「基礎看護技術論Ⅰ」（2年生必修科目、2単位、2016年度履修者95名）において、学生がより能動的学修するための取り組みを行った。

なお、文中写真は、本科目紹介のために公表される旨説明し、被写体の同意を得て掲載している。

II. 「基礎看護技術論Ⅰ」にて能動的学修を促進する取り組み

1. 授業での課題や学修方法についての提示

実習室小委員会の学部生への聞き取り調査において、「演習課題が明確に提示され、授業の初めに自己学修物品の使用法について説明がされると意欲が増す」という意見があった。そのため、2015年度実習室小委員会の実習室環境改善についての調査において、学生の自己学修利用時間の最も多かった本科目が、実習室助手と協働し、各演習項目の授業初めに技術演習と自己学修の方法や注意点を説明する時間を設けることとした。また、能動的学習をすすめるために、早期に学習支援システム manaba で課題を提示し、事前の内容把握を促すと共に、演習までの自己学修の期間の確保に努めた。

2. 学生のマナー向上に向けて

マナー向上のためには、「教科担当教員より授業内にて、演習内容やマナーをしっかりと伝える」ことが必要との学生の意見を受け、科目担当教員と実習室助手が丁寧に事前説明を行った。また、「学生個人が責任感を持ち、自分が使用する物品や環境について整備する意識を高めることが、マナー向上につながるのではないか」という意見を踏まえ、本科目内にて、よりよい自己学修環境について学生がディスカッションする時間を設けた。あわせて、学生ベッド担当制を導入し、かつ、演習項目ごとに担当学生を決め、演習物品の準備やかたづけ、自己学修用品の整備を行った。各プロセスにおいて、教員が補助役となり自己学修環境を整備することの大切さを学べ

るよう関わった。

3. 2グループ制の導入

上記の取り組みを行うために、科目運用形式の変更を行った。2015年度までは、履修者全員に教室で講義を行い、その後、実習室にて演習を行っていたが、2016年度より、学生を2グループに分けた。すなわち、教室で講義を行うグループと、実習室にて自己学修環境についての取り組みを行うグループに分け、グループの名称は本学の創始者のファーストネームから、アリストルドルフとした。また、科目運用形式の変更にあたっては、「基礎看護技術論Ⅰ」を担当する基礎看護学領域の教員の意見を得た。

4. 自己学修環境整備スケジュール（表1）

学生による自己学修のための環境整備についての取り組みは、演習の進行にあわせて、計5回実施した。初回は、実習室のオリエンテーションと演習課題や自己学修の方法について説明した。2回目に、学生が自己学修を行っている演習項目についての質問や自己学修環境についての課題の共有、自己学修環境整備を行った。3回目

表1 自己学修環境整備スケジュール

回数	実施日	内 容
1	4月14日	・実習室オリエンテーション ・演習①（車いす移動、全身清拭、ベッドメイキング）についての説明
2	4月21日	・アールーム自己学修について ・演習①についての質問 ・演習①自己学修環境整備 学生演習担当者を中心に
3	5月19日	・演習①の自己学修状況について ～気持ちよく自己学修するためには～ ・演習①の項目担当者を中心に、みんなで気持ちよく学修できるアールーム環境維持について考える 〔気持ちよくない例〕 ・しまわれないベッドのハンドル ・床頭台が通路に放置 ・口紅がついた枕カバー ・シンク周囲におきっぱなしの物品 ・自己学修用でないシーツの使用 →話し合った結果は、演習科目担当学生が manaba の掲示板に書き込む ・演習②（浣腸、導尿、吸引、陰部洗浄）自己学修について 自己学修用モデル説明、物品準備
4	6月9日	・演習③（食事、体位保持、便器尿器の当て方）自己学修について 自己学修用モデル説明、物品準備 ・実習室全ベッドシーツ交換
5	7月21日	・演習②の自己学修状況について ・「基礎看護技術論Ⅰ」自己学修環境整備について：振り返りと今後に向けて ・演習②③の環境整備



図1 実習室助手による自己学修方法説明

全28件 / 先頭ページ 次の10件 1 [2] [3]
スレッドタイトル
導尿(アリス) 振り返り
吸引(ルドルフ) まとめ
吸引(アリス) 振り返りまとめ
導尿(ルドルフ) 振り返りまとめ
洗腸(アリス) 話し合いまとめ
陰部洗浄(アリス) 振り返りまとめ
ルドルフ 陰部洗浄 振り返り
洗腸(ルドルフ)話し合いまとめ
濡れた枕・シーツを放置しない!
導尿: 質疑応答
全28件 / 先頭ページ 次の10件 1 [2] [3]

図2 manaba でのディスカッション内容の共有

表2 自己学修環境整備が「よかった」と回答した理由 (自由記述)

内 容	件数	%	具 体 的 内 容
責任・意識が向上した	18	37.5	環境整備への意識が向上した。皆が問題に思っていることを共有し認識できた
効率よく担当できた	12	25.0	一人当たりの作業が効率よく分担されていた
平等に分担できた	9	18.8	普段行わない人も参加できたから
意見が共有できた	7	14.6	皆で環境整備で不明な点を確認できたから
その他	2	4.2	すべての演習で使用した物品の取り扱いについて知ることができ良かった。定期的にモデルを確認することでモデルをきれいに保つことができるのでよかったと思った
合 計	55	100.0	

には、「気持ちよく自己学修を行う」ための実習室の環境整備について、学生間にてディスカッションし、その内容を2グループで共有するため、演習担当学生が学習支援システム manaba の掲示板に記載した (図1, 2)。

最終回には、本科目にて行った自己学修環境整備について、全体の振り返りを行った。各回は、実習室助手と基礎看護技術論Ⅰの担当教員 (臨床教員含む) が複数で担当した。

5. 自己学修環境整備についての学生の感想

自己学修環境整備の最終回にて、自己学修環境整備についての振り返りを行った。振り返りにあたっては、広く参加者の意見を得るため、WEB アンケートシステムを利用し、意見内容を踏まえ、振り返りを行った。アンケート実施にあたっては、結果は個人が特定されない形式にて公表される旨提示した。

1) 授業内での自己学修環境整備について

授業内にて自己学修環境整備を行ったことについて3択で感想を得たところ、よかった57% (50名)、どちらでもない37% (33名)、よくなかった6% (4名) という結果であった。

2) 自己学修環境整備についての感想

自己学修環境整備を行って「よかった」理由として、「責任・意識が向上した」、「効率よく担当できた」、「平等に分担できた」、「意見が共有できた」といった内容の意見があった (表2)。一方、「よくなかった」理由としては、「人数が多く効率が悪かった」2件、「担当する演習によって、環境整備の負担が異なる」、「別れてやる意味を見出せなかった」、「立位では集中しづらい」との感想があった。

3) 実習室マナー向上のために必要なこと

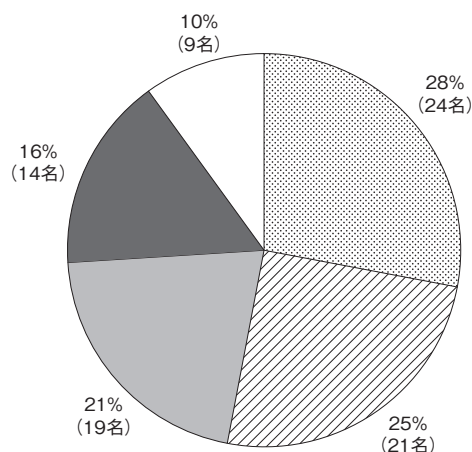
実習室のマナー向上のために必要なことについて、選択肢にて意見を求めた。選択肢は、2015年度の実習室小委員会の調査結果¹⁾を参考に作成した。その結果、「授業内で環境整備の時間を設ける」(28%)、「使用する教科の教員より事前にしっかり伝える」(25%)、「片付けチェックリストをアールーム内の見やすい場所に掲示する」(21%)が上位を占めた (図3)。

4) 2グループ制の導入について (表3)

2グループで教室と実習室に分かれて、授業を展開したことについては、よかった62% (54名)、どちらでもない36% (31名)、よくなかった2% (2名)、という結果であった。

表3 2グループ制が「よかった」理由（自由記述）

内 容	件数	%	具 体 的 内 容
少人数がよい	12	21.8	少人数で学習できたのでよかったです
質問しやすい	11	20.0	全体と一緒にやるよりも、少人数なため質疑応答がやりやすく、少人数で質疑応答や手順確認ができたことがよかった
授業が受けやすい	10	18.2	少人数で学べたので、多人数より勉強が深まると思います
講義が聞きやすい	5	9.1	少人数だったので説明も聞きやすかった
協調性が保ちやすい	4	7.3	みんなが協調性をもって授業に参加できるから
細かい指導を受けられる	4	7.3	人数が少ないので、先生から細かく指導をいただけるので良かった
発言・意見がいいやすい	3	5.5	少人数に分かれやすかったことで意見が全体に通じやすかった点がよかった
緊張感がある	2	3.6	講義にも緊張感があったし、実技もスムーズだった
効率性が高い	2	3.6	半分ずつに分かれることで効率性が上がると思うので良かったと感じました
積極性がでる	1	1.8	少人数にしたことで、皆が積極的に参加できる雰囲気になった
共有には限度がある	1	1.8	お互いの情報が錯綜して、演習をする際に困惑したことがある。共有には限度があると感じた
合 計	55	100.0	



- ▨ 授業内で環境整備の時間を設ける (2016年度実施)
- ▧ 使用する教科の教員より事前にしっかり伝える
- 片付けチェックリストをアールーム内の見やすい場所に掲示する
- マナーが悪い場合は、使用に制限をかける
- 学生演習担当者を決める (2016年度実施)

図3 実習室でのマナー向上のために必要なこと (n=87)

5) 2グループ制導入についての感想

2グループ制導入が「よかった」理由として、「少人数がよい」、「質問しやすい、授業が受けやすい」、「講義が聞きやすい」、「協調性が保ちやすい」、「細かい指導を受けられる」、「発言・意見がいいやすい」という感想が聞かれた。

Ⅲ. 今後に向けて

今回、実習室小委員会が2015年度に実施した「看護学

部学生の能動的学修を推進する実習室環境の整備」事業の結果を受けて、学生の能動的自己学修促進に向け、「基礎看護技術論Ⅰ」の科目の展開方法の変更を試みた。2グループ制を導入し、実習室にて、「授業での課題や学修方法についての提示」を行い、「自己学修環境におけるマナー向上」のための自己学修環境整備についての時間を設けた。

2グループ制を導入し、実習室にて環境整備の時間を設けたことについての学生の感想は、「よかった」が過半数を占め、「よくなかった」は2%であった。また、「責任・意識が向上した」という内容の感想が目立っていた。さらに、マナー向上のためには、「授業内で環境整備の時間を設ける」が上位であった。これらのことから今回の取り組みは、ある一定の成果があったと捉えることができよう。今後も、学生が能動的に学べる学習環境の整備に向けて、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

謝 辞

2016年度「基礎看護技術論Ⅰ」を担当された教員の皆様、臨床教員の皆様、ありがとうございました。皆様のご協力を得て、円滑な科目運営が出来ましたこと感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 佐居由美, 中溝倫子他. 学生にとって学びやすい実習室を目指した取り組み-学生実習室委員会との連携および実習室助手の役割に焦点を当てて-. 聖路加国際大学紀要. 2016; 2: 78-82.